

ノーロード世界株式トップフォーカス

追加型投信／内外／株式

交付運用報告書

第1期(決算日2017年3月15日)

作成対象期間(2016年3月31日～2017年3月15日)

第1期末(2017年3月15日)	
基準価額	11,231円
純資産総額	21百万円
第1期	
騰落率	12.3%
分配金(税込み)合計	0円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、下記の手順にて閲覧・ダウンロードいただけます。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>

右記URLにアクセス ⇒ ファンド検索機能を利用して該当ファンドのページを表示 ⇒ 運用報告書タブを選択 ⇒ 該当する運用報告書をクリックしてPDFファイルを表示

○運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、「ノーロード世界株式トップフォーカス」は、2017年3月15日に第1期の決算を行ないました。

当ファンドは、主として、世界の株式(預託証券を含みます。)を投資対象とする投資信託証券の一部、またはすべてに投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行なってまいりました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

日興アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号

<http://www.nikkoam.com/>

当運用報告書に関するお問い合わせ先

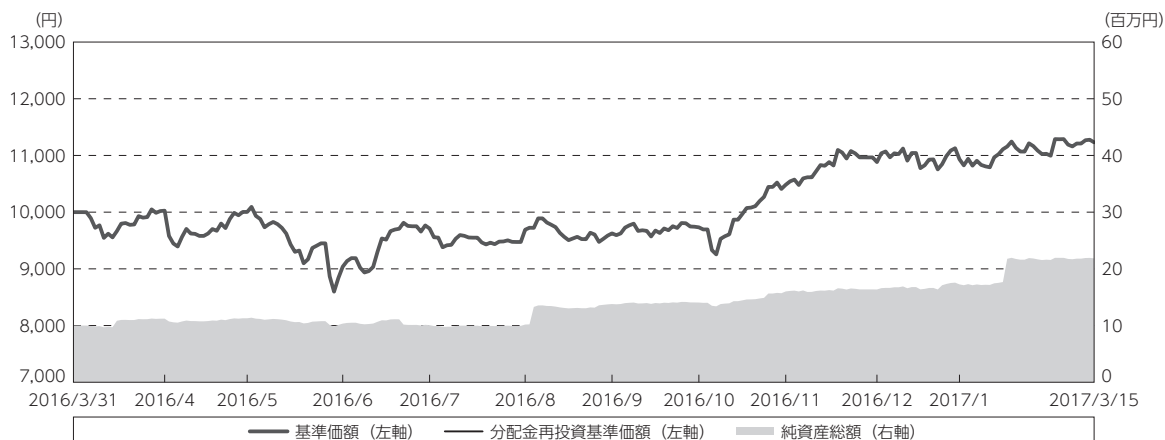
コールセンター 電話番号: 0120-25-1404
午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2016年3月31日～2017年3月15日)



設定日：10,000円

期末：11,231円 (既払分配金(税込み)：0円)

騰落率：12.3% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主として、ルクセンブルグ籍外国投資法人「日興AMグローバル・エクイティ・ファンド クラスP」円建投資証券に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行なっております。当作成期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

<値上がり要因>

- ・米国経済の先行きに対して楽観的な見方が強まったこと。
- ・米国の利上げが見送られたこと(2016年9月)や、市場で利上げのペースが穏やかなものになるとの見方が広がったこと(2017年1月)。
- ・米国新政権の経済政策に対する期待が高まったこと。
- ・「Geely Automobile Holdings (自動車)」や「KeyCorp (銀行)」などの保有銘柄が値上がりしたこと。

<値下がり要因>

- ・国民投票による英国の欧州連合（E U）離脱決定などを受けて世界経済に対する懸念が高まったこと。
- ・「BT Group（通信）」や「LivaNova（ヘルスケア）」などの保有銘柄が値下がりしたこと。

1万口当たりの費用明細

(2016年3月31日～2017年3月15日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 113	% 1.118	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	(52)	(0.518)	委託した資金の運用の対価
（ 販 売 会 社 ）	(58)	(0.570)	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
（ 受 託 会 社 ）	(3)	(0.031)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用	10	0.096	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 監 査 費 用 ）	(0)	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（ 印 刷 費 用 ）	(9)	(0.091)	印刷費用は、法定開示資料の印刷に係る費用
（ そ の 他 ）	(0)	(0.000)	その他は、信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	123	1.214	
期中の平均基準価額は、10,096円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(注) この他にファンドが投資対象とする投資先においても信託報酬等が発生する場合があります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2012年3月15日～2017年3月15日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
 (注) 当ファンドの設定日は2016年3月31日です。

	2016年3月31日 設定日	2017年3月15日 決算日
基準価額 (円)	10,000	11,231
期間分配金合計(税込み) (円)	-	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	-	12.3
純資産総額 (百万円)	10	21

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
 (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
 (注) 設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、騰落率は設定当初との比較です。
 (注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定していません。

投資環境

(2016年3月31日～2017年3月15日)

(株式市況)

期間中の世界の株式市場は上昇しました。

期間の初めから2016年6月までの世界の株式市場は、国民投票による英国の欧州連合（E U）離脱決定などを受けて世界経済に対する先行き懸念が高まった一方で、米国連邦準備制度理事会（F R B）による利上げペースの緩和観測や英国のE U離脱を受けた政策当局による対応策への期待などから、株価は一進一退で推移しました。7月以降12月までは、発表された経済指標などから米国経済に対する楽観的な見方が強まったこと、9月の米国連邦公開市場委員会（F O M C）にて利上げが見送られたこと、米国大統領選挙後に米国次期政権の減税や財政支出拡大による景気刺激策が経済成長を加速させるとの期待が広がったこと、石油輸出国機構（O P E C）と非加盟国が減産で合意し今後の原油価格の安定が期待されたことなどを背景に、株価は上昇しました。

2017年1月以降、期間末までは、2016年12月開催のF O M C議事録で今後の利上げは緩やかなペースで行なわれる可能性が高いとの認識が示されていたこと、米国新政権発足後にあらためて経済成長の加速や法人税改革などに対する期待が高まったこと、F R B議長が米国景気に対して楽観的な見方を示したことなどが好感され、株価は上昇しました。

(国内短期金利市況)

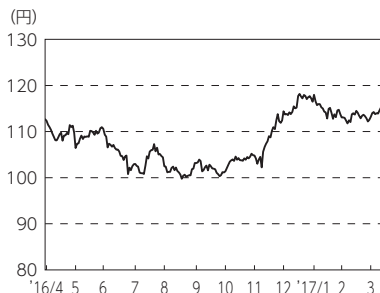
無担保コール翌日物金利は、期間の初めの-0.00%近辺から、日銀によるマイナス金利の導入開始などを受けて低下が進み、-0.05%近辺で期間末を迎えました。

国庫短期証券（T B）3ヵ月物金利は、期間の初めの-0.12%近辺から、日銀による国債買入れの継続や追加の金融緩和観測などを受けて低下し、-0.33%近辺で期間末を迎えました。

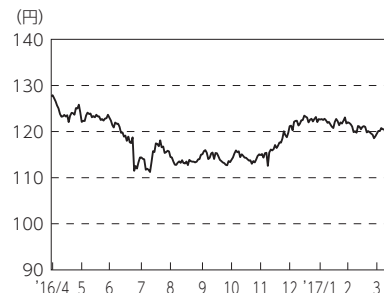
(為替市況)

期間中における主要通貨(対円)は、右記の推移となりました。

円／アメリカドルの推移



円／ユーロの推移



当ファンドのポートフォリオ

(2016年3月31日～2017年3月15日)

(当ファンド)

当ファンドでは、収益性を追求するため、「日興AMグローバル・エクイティ・ファンド クラスP」円建投資証券を高位に組み入れ、「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券への投資を抑制しました。

(日興AMグローバル・エクイティ・ファンド クラスP)

国別配分は、英国やオーストラリアなどについて強気姿勢で臨んだ一方、米国などについては慎重姿勢としました。セクター配分については、期間の前半に投資比率を高めとしていたヘルスケアや、資本財・サービスや不動産セクターなどについて積極姿勢とし、金融やエネルギーセクターなどに対して慎重姿勢としました。

個別銘柄については、優れたビジネスを展開しキャッシュフロー創造力の改善と健全な資本配分を有すると判断した銘柄を中心にポートフォリオを構築しました。

(マネー・アカウント・マザーファンド)

運用の基本方針に従い、国庫短期証券の現先取引、コールローンや金銭信託などを通じて、元本の安全性を重視した運用を行ないました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2016年3月31日～2017年3月15日)

当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

分配金

(2016年3月31日～2017年3月15日)

分配金は、基準価額水準、市況動向などを勘案し、以下の通りといたしました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり、税込み)

項 目	第 1 期
	2016年3月31日～ 2017年3月15日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	1,230

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

(当ファンド)

引き続き、原則として「日興AMグローバル・エクイティ・ファンド クラスP」円建投資証券を高位に組み入れ、「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券への投資を抑制する方針です。

(日興AMグローバル・エクイティ・ファンド クラスP)

米国については、法人税の減税や支出拡大の中で議会においてどの程度の政府借入金が承認されるのか、財政拡大が実施される状況下でFRBはどのように金融政策を決定していくのかといった懸念はありますが、潜在成長率を上回る成長が続くと基本的な見解に変更はありません。一方、米国以外の地域・国については、見通しがより不透明と考えています。特に欧州では、経済的リスクよりも政治的リスクの方が問題と考えられます。2017年は多くの選挙が控えており、2016年に具現化した大衆迎合主義の潮流が続く可能性があります。

株式市場は、足元で多数の好材料が概ね株価に織り込まれており、財政政策の公表や企業業績の伸びに関する悪材料を織り込む余地はほとんどありません。米国新大統領が公約している減税は米国企業の純利益の押し上げに貢献するとみられますが、アメリカドル高や一段の賃金の上昇、グローバル化によるデフレの影響の大幅な反転をもたらすものではないと考えられ、これらは時間の経過と共に明らかになるとみられます。

個別銘柄については、短期的なマクロ経済動向に影響されることには慎重であるべきであり、中長期に優れたビジネスを展開し、キャッシュフロー創造力の改善、健全な資本配分が可能であると判断した銘柄への投資を継続する考えです。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

(マネー・アカウント・マザーファンド)

引き続き、安定した収益の確保をめざして安定運用を行なう方針です。主な投資対象は原則として、わが国の国債および格付の高い公社債とし、それらの現先取引なども活用する方針です。また、コールローンや金銭信託などに投資することもあります。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

お知らせ

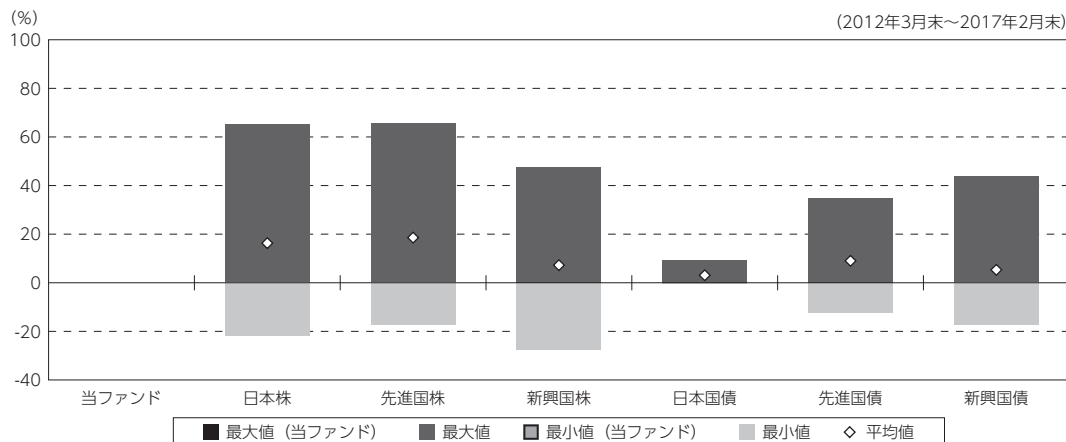
2016年3月31日から2017年3月15日までの期間に実施いたしました約款変更はございません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／株式
信託期間	2016年3月31日から2026年3月16日までです。
運用方針	主として、世界の株式（預託証券を含みます。）を投資対象とする投資信託証券（投資信託または外国投資信託の受益証券（振替投資信託受益権を含みます。）および投資法人または外国投資法人の投資証券をいいます。）の一部、またはすべてに投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行ないます。
主要投資対象	「日興AMグローバル・エクイティ・ファンド クラスP」円建投資証券 「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券 上記の投資信託証券を主要運用対象とします。
運用方法	主として、投資信託証券の合計組入率を高位に保つことを原則とします。各投資信託証券への投資比率は、原則として、市況環境および投資対象ファンドの収益性などを勘案して決定します。なお、資金動向などによっては、各投資信託証券への投資比率を引き下げることもあります。投資信託証券については、収益機会の追求やリスクの分散などを目的として、適宜見直しを行ないます。この際、定性評価や定量評価などを勘案のうえ、新たに投資信託証券を指定したり、既に指定されていた投資信託証券を外したりする場合があります。
分配方針	毎決算時、原則として分配対象額のなかから、基準価額水準、市況動向などを勘案して分配を行なう方針です。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行なわないこともあります。

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	—	65.0	65.7	47.4	9.3	34.9	43.7
最小値	—	△ 22.0	△ 17.5	△ 27.4	△ 0.2	△ 12.3	△ 17.4
平均値	—	16.3	18.6	7.2	3.1	9.0	5.3

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2012年3月から2017年2月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。なお、当ファンドにつきましては、運用期間が1年未満であるため掲載しておりません。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX、配当込)

先進国株：MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込、円ベース)

日本国債：NOMURA-BPI 国債

先進国債：シティ世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JP モルガン GBI-EM グローバル・ディバースファイド (円ヘッジなし、円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

指数について

●東証株価指数 (TOPIX、配当込) は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、東京証券取引所に帰属します。●MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込、円ベース) は、MSCI Inc. が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。●MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込、円ベース) は、MSCI Inc. が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。●NOMURA-BPI 国債は、野村證券株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、対象インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、対象インデックスを用いて行われる日興アセットマネジメント株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。●シティ世界国債インデックス (除く日本、円ベース) は、Citigroup Index LLC が開発した、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、当指数に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、Citigroup Index LLC に帰属します。●JP モルガン GBI-EM グローバル・ディバースファイド (円ヘッジなし、円ベース) は、J.P. Morgan Securities LLC が算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLC に帰属します。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2017年3月15日現在)

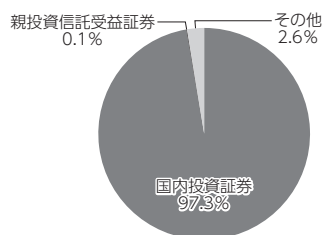
○組入上位ファンド

銘柄名	第1期末
	%
日興AMグローバル・エクイティ・ファンド クラスP	97.3
マネー・アカウント・マザーファンド	0.1
組入銘柄数	2銘柄

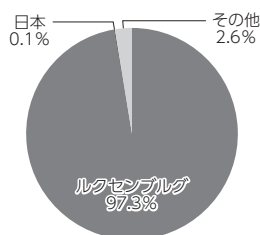
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

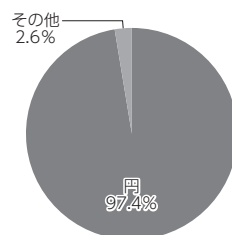
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) 国内投資証券には外国籍(邦貨建)の投資証券を含めております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

純資産等

項目	第1期末	
	2017年3月15日	
純資産総額	21,848,205円	
受益権総口数	19,454,289口	
1万口当たり基準価額	11,231円	

(注) 期中における追加設定元本額は11,380,675円、同解約元本額は1,926,386円です。

組入上位ファンドの概要

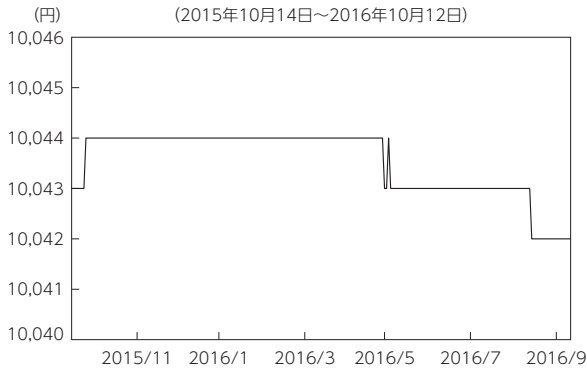
日興AMグローバル・エクイティ・ファンド クラスP

当運用報告書作成時点において、開示できる情報はございません。

マネー・アカウント・マザーファンド

【基準価額の推移】

(2015年10月14日～2016年10月12日)



【1万円当たりの費用明細】

(2015年10月14日～2016年10月12日)

項 目	当 期	
	金 額	比 率
(a) そ の 他 費 用 (そ の 他)	円 0 (0)	% 0.000 (0.000)
合 計	0	0.000

期中の平均基準価額は、10,043円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万円当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

組入資産の内容

(2016年10月12日現在)

2016年10月12日現在、有価証券等の組入れはございません。